有明海に開ける玉名横島干拓 ― 先人たちの技術と労力により造成された干拓地 ―

―熊本県玉名市―

（株）三祐コンサルタンツ　**渡　邉　圭 四 郎**

1．はじめに

国営海岸保全事業「玉名横島地区」の事業区域は，熊本県北西部の玉名市に位置し，西は菊池川，東は唐人川，南は有明海にそれぞれ面した沖積平野である。本地区は，ほとんどが干拓により造成された土地であり，戦国時代の武将「加藤清正」の入国時に始まり，国営横島干拓（昭和21～49（1946～1974）年）の完成を経て形成された農業地帯である。また，本地区のすべての農地が農業振興地域に指定されており，イチゴ・トマトなどのハウスを使った施設園芸は，全国的にも有名品目として流通している。

2．干拓の歴史

玉名市は，今でこそ日本でも有数の食料供給基地となっているが，平野部のほとんどは江戸時代以降の干拓によって造成されたものである。有明海は干満の差が6ｍに及び，これが周辺河川からの土砂の流入とあいまって干潟が発達しこれに伴い干拓が盛んに行われてきた。

本地域での本格的な干拓は，戦国時代の武将加藤清正が肥後藩（現在の熊本）に入国した時に始まった。清正は入国の翌年天正17（1589）年には干拓に着手し，以来，干拓は加藤氏から細川氏へと引き継がれ，江戸，明治，大正と営々と干拓が行われてきた[1]（**図-1**）。

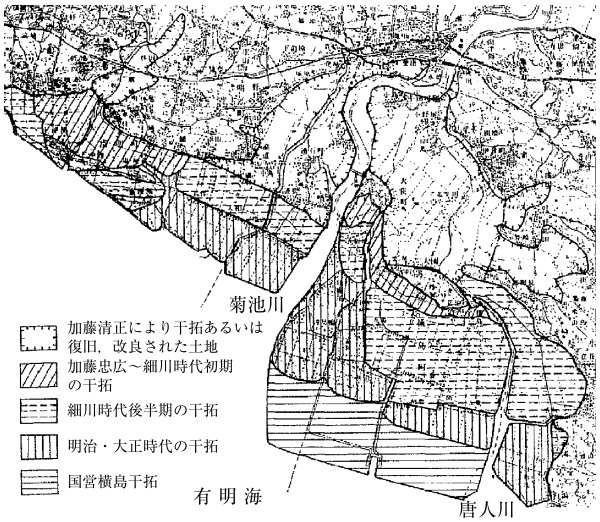

図-1　玉名平野における干拓の歴史[2]

戦後の昭和21年に国営横島干拓事業が着工し，昭和49年に完了したのを最後に，現在に至っている。

3．国営海岸保全事業「玉名横島地区」の事業概要

国営海岸保全事業「玉名横島地区」の海岸保全施設は，昭和21年から昭和49年にかけて国営横島干拓事業などで築造されたものであるが，有明海特有の大きな潮汐作用などによる老朽化が著しく，また，超軟弱な地盤条件のため，地盤沈下による堤防高の不足も生じており，台風や高潮などに対する十分な防災機能が果たされていない状況にある。

このため，本事業は，堤防高の不足および老朽化した海岸保全施設の補修・改修を行い，台風や高潮などによる被害から「背後農地」および「地域住民の生命・財産」を守るとともに，海岸環境の整備と保全および海岸の適切な利用を図るものである（**表-1**，**写真-1**，**2**）。

4．地域の概要[1]

玉名市の農用地面積の占める割合は44％で熊本県の平均に比べて2倍以上と非常に高くなっている。これは，江戸時代以降の干拓によって多くの農地が造成

表-1　玉名横島地区の事業概要[1]

防護面積	2,905 ha（農地：2,136 ha，宅地等：769 ha）			
防護戸数	2,421 戸			
防護人口	8,659 人			
主要工事計画	堤防補強工	10.2 km	潮遊池工	9.6 km
	排水樋門工	6 カ所	排水機場工	3 カ所

写真-1　海岸堤防の改修状況（景観配慮）
（石積み護岸の採用）

写真-2 海岸堤防の改修状況（生物多様性の確保）
（突堤を設置し沿岸漂砂の堆積を促進）

されたためである。

玉名市の第一次産業就業者数の割合は17％で熊本県の平均より2倍近く高くなっている。また，玉名市のように人口7万人規模以上の市町村で農業就業人口の割合がこれだけ高いところはまれである。

本地域は，年間を通じ温暖で，降雨や日照時間は全国平均を上回るなど農業に適した気候であり農地のほとんどは干拓により造成された平坦部にあり，このすべての農地が農業振興地域に指定されている。

本地域は，水稲，麦，大豆，野菜などを組み合わせた複合営農とイチゴ・トマトなど施設型作物の営農が展開され，熊本県でも有数の農業地帯となっている（**写真-3**）。

玉名市の作物別の農業算出額の割合は野菜が57％を占めており，そのうちイチゴとトマトで90％を占めている。イチゴとトマトは全国の市町村の中でそれぞれ2位の産出額で，この2品目の合計は100億円以上（平成18年データ）となっている。

写真-3 干拓地区内の施設園芸の状況

5. おわりに

写真の撮影地点は

「山路を登りながら，こう考えた。智に働けば角が立つ。情に棹させば流される。意地を通せば窮屈だ。とかくに人の世は住みにくい」

と続く，冒頭部分が有名な夏目漱石の小説「草枕」の舞台な玉名市天水町小天（おあま）である[3]。

漱石は熊本に居るあいだ3回，小天に出かけたと考えられており，留学先のロンドンから友人の山川信次郎宛の手紙で「僕は帰ったら日本流の旅行がしてみたい，小天など思い出すよ」と書き送っている[4]ほど，小天での日々は漱石にとって深く心に残るものだったようである。

また，天皇，皇后両陛下が皇太子，同妃殿下時代の昭和37（1962）年5月，九州を巡啓された際，小天近隣の地に立たれ風光明媚な景観に深く感銘されたとされている（**写真-4**）。

漱石が「桃源郷」と呼んだ地「小天」[3]のミカン畑から望む有明海，遠く雲仙普賢岳，天草の景色は素晴らしく，一見の価値がある。

写真-4 巡啓記念碑と漱石句碑
「降りやんで 蜜柑まだらに 雪の舟」漱石

引 用 文 献

1) 九州農政局玉名横島海岸保全事業所：玉名横島地区事業概要パンフレット（2015）
2) 九州農政局横島干拓建設事業所：よこしま，p.10（1975）
3) 玉名市：草枕の里てんすい，http://www.city.tamana.lg.jp/q/aview/398/2071.html（参照2016年12月5日）
4) くまもと県民テレビ：漱石と熊本，http://www.kkt.jp/matome/souseki/（参照2016年12月5日）